

国指定重要無形民俗文化財

「角館祭りのやま行事」(平成3年2月21日指定)

# 角館のお祭り

仙北地域に秋の訪れを告げる角館のお祭りは9月7・8・9日の3日間にわたって角館の町中を祭り一色に染めあげました。

今年のお祭りは、初日に小雨が降ったものの、2日目以降は晴天に恵まれ、週末とも重なったことから昨年と比べ8万3千人増の28万5千人の人出を記録しました。(角館のお祭り実行委員会調べ)



角館のお祭りは、地域の繁栄や商売繁盛、家族の無病息災などを祈願するもので、角館町岩瀬の神明社(9月7・8日)と西勝楽町の薬師堂(9月8・9日)の祭りが一緒になったものです。

北仙北地域全体で支えられ、伝承されてきたお祭りは、曳山や飾山囃子ばかりでなく、お祭りに関わる町内組織、御輿渡御、張番、置山、人形や曳き廻し作法、しきたりなどお祭りに関わる全体が国の重要無形民俗文化財「角館祭りのやま行事」として平成3年2月21日に指定されました。



歌舞伎人形や武者人形をのせきれいに飾った18台の曳山が7日の午後4時に各丁内を出発し神明社へ参拝に向かいます。

8日は、武家屋敷通りを通して佐竹北家当主へ上覧。薬師堂へは8日または9日に参拝に向かいます。



曳山は、それぞれの目的に向け飾山囃子を奏で、艶やかな手踊りを披露しながら町内を曳き廻します。曳山同士が道でかちあうと、通行の優先権をめぐる交渉を繰り返す、決裂すると実力で押し通すため曳山同士が激しく激突する山ぶっつけが始まります。曳山を曳く若者ばかりでなく、見物する人をも魅了する華麗で豪快な祭り絵巻が繰り広げられ、今年も明け方まで若者のかけ声とお囃子の音が響いていました。



平成18年度

「おやま囃子コンクール」結果

(主催：角館のお祭り保存会)

《囃子部門》

最優秀賞(角館のお祭り保存会長賞)

北部丁内若者 上檜木内鈴木組 代表 鈴木定平

優秀賞(角館町観光協会賞)

駅通り若者 愁明会 代表 照島重美

優秀賞(仙北市商工会賞)

横町若者 角館山本組 代表 山本善英

《手踊り部門》

最優秀賞(角館のお祭り保存会長賞)

北部丁内若者 上檜木内鈴木組 代表 鈴木みつる

優秀賞(角館町観光協会賞)

横町若者 渡部幸子社中 代表 渡部幸子

優秀賞(仙北市商工会賞)

西勝楽町若者 藤美会 代表 藤原ミサ子

